

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
祖師谷まちづくりセンター

- 1 実施日 令和6年10月19日（土）午前10時～正午
- 2 場所 祖師谷区民集会所第1会議室
- 3 参加人数 30名
町会・自治会関係6名、身近なまちづくり推進協議会防災部会員8名、
ごみ・減量リサイクル推進委員会1名、商店街関係1名、
日赤祖師谷分団1名、社会福祉協議会1名、祖師谷児童館1名、
祖師谷あんしんすこやかセンター職員1名、避難所運営委員5名、
その他5名
- 4 テーマ
「災害時の自助・共助」～地域コミュニティの力について
- 5 実施内容
 - (1) 開会挨拶 祖師谷まちづくりセンター所長事務取扱副参事 皆川 健一
 - (2) 講演
講師：せたがや防災 NPO アクション 代表 宮崎 猛志 氏
 - ① 在宅避難と自助
 - ② 都市部における「地区のコミュニティ形成」について考える
 - ③ 「自助・共助・公助の役割分担と連携」について考える
 - (3) 質疑応答
 - (4) グループワーク
 - ① 町会自治会等において、地区のコミュニティ形成を図りながら地区の課題に取り組んでいる事例の共有
 - ② 新たに取り組んでみたいこと
 - (5) 発表

(6) 避難行動要支援者への支援について

砧総合支所地域振興課地域振興・防災担当 長坂 誠

(7) 閉会

6 成果物

(1) 当日の写真

(2) 講演資料

(3) アンケート集計表

<防災塾の様子>



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）					日 付		令和6年11月14日	
					地 区		祖師谷地区	
1-1) ご自身について（性別）								
	①男性	②女性	③未記入等					
数	13	12	3					
1-2) ご自身について（年齢）								
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数				1	3	5	10	6
1-3) ご自身について（職業）								
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他
数	3	1		1	2	7	10	3
2 今まで参加した防災塾の開催年度について								
	①今回が初めて	②昨年度	③2年以上前					
数	9	12	11					
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。								
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない			
数	5	16	3	4				
4 設問3の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
・講演とワークショップが連関されており理解が深まった。・各団体より多数の意見があった。								
・毎回各町会の情報が聞けるので、自分の町会に活かしていきたい。・地道な行動が大事と思われる。								
・町会会議等で議論している。・なかなか地域に限定された防災について話し合うことがなかった。								
・時間的なこともあるが、意見交換というステップまでいかない。・意見交換、議論の時間が十分にない。・もっと時間をかけてほしかった。								
・意見交換ができてよかったが、時間がなくて発表を聴けないグループがあった。・現状が理解されていない。								
・意見は出たが、議論の時間が少ない。・それぞれの現状等の記入で時間が無くなり、意見交換ができていないが、記入のものを見て知ることはできた。								
・自分が祖師谷の防災について知識がなく、聞くだけになった。地区住民の参加が少ない。								
5 自分の地区の「地区防災計画」をご存じでしたか。								
	①知っていた	②知らなかった（今回参加したことで知った）						
数	22	5						
6 「防災塾」に参加して、「地区防災計画」の内容を理解できましたか。								
	①参加前から理解していた	②参加したことで理解できた	③理解できなかった					
数	9	12	2					
7 設問6の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
・防災部会のメンバーのため理解していた。・他の団体の集会で知っていた。・区のセミナー等で聞いていた。・毎回参加することで共有できる。								
・テーマに含まれていなかったため理解できなかった。・これから読みます。								
・地区防災計画というよりできることとできないことの確認と実行が必要であると理解した。								
・地区防災計画があるのは知っていたが、読み込んでいないので理解できていない状態です。								
8 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと								
	数		数					
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	15	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	9					
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	9	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	11					
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	12	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	5					
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	17							

9 今後の希望する「防災塾」の進め方について					
	数		数		
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	9	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	6		
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	5	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	11		
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	6	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	5		
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	8	⑨その他（・祖師谷地区住民へのPR方法の検討など ・皆で「顔」を確認しておくことも大切 ・今まで参加していない人の参加）	3		
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	10				
10 「地区防災計画」の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数		数		
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	10	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	8		
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	7	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	8		
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	9	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	5		
＜その他＞・知っていることをできるようにするため、より多くの方の訓練への参加					
11 「防災塾」に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	13	9			
12 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
・参加者を増やす方策を検討してほしい。・ワークショップ形式よりセミナー形式で行われる会のほうが嬉しい。宮崎さんの話は好きでもっと聞きたい。					
・講演会は大変参考になったが、ワークショップは時間が不足して残念だった。・事案が多いので時間が足りない。少し課題をしぼったらどうか。					
・年間でテーマを決めてストーリーのある展開にほしい。・講演が少し長く、目的とずれているところがあった。改めて反省させられました。					
・本日の講話の中でプレーヤーを増やすという話があったが、その増やし方が課題であり、増やすことが意識を変えていくことにつながると思う。					
・経験豊富な方の講義が聞けて学びが多かった。グループワークもよかったです。					
・在宅で避難するための情報や物品などについてもっと知りたい。・大変勉強になりました。・周りの町会の出来事が分かり勉強になった。					
・自助・共助・公助のいずれも必要であるが、あまり他人を頼みにすることは第二的なことと思う。					

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課

成城まちづくりセンター

(1) 実施日 令和6年9月11日(水曜日) 13:30~16:15

(2) 場所 成城ホール

(3) 参加人数 26人

(4) テーマ

①東京防災学習セミナー「近年の災害から学ぶ」

②ご近所グループディスカッション

〈目的〉

近年発生した災害の教訓や被災者・支援者の体験談を学び、地区の住民同士で連携を深めるグループディスカッションを行うことにより、地区全体の防災力向上につなげる。

(5) 実施内容

1 開会

2 挨拶

(1) 成城地区区民防災会議 会長 岩波 桂三

(2) 砧総合支所地域振興課 課長 田村 朋章

3 東京防災学習セミナー「近年の災害から学ぶ」

講師 吉高 美帆 氏(防災士、「自分でやる防災 研究・普及所」事務局長)

- ・被災地の現状から大震災のリアルを知り、成城地域で特に問題視されている情報、防犯、初期消火の面について、課題や具体策を学び、防災への意識を高める。

4 避難行動要支援者への支援の周知・啓発について

- ・保健福祉課より避難行動要支援者に対する災害時に必要な支援について周知を行い、共助を呼びかけた。

5 直後対策について

- ・成城自治会災害プロジェクトチームの活動状況報告。

6 事後対策について（報告）

- ・各避難所運営委員会の今年度活動計画・報告。

7 ご近所グループディスカッション

- ・参加者を5班に分け、「在宅避難をするにはどうしたらよいか」について、各々情報共有や意見交換を行い、発表した。

8 今後の予定について

- ・成城地区で行われる避難所運営訓練等のお知らせ。

9 成城消防署

- ・成城における緊急時の火災、消火活動について説明

10 閉会



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）					日 付 令和6年9月11日		地 区 成城	
1-1) ご自身について（性別）								
	①男性	②女性	③未記入等					
数	4	12	2					
1-2) ご自身について（年齢）								
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数				2	3	5	5	1
1-3) ご自身について（職業）								
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・ アルバイト	⑥専業主婦 （主夫）	⑦無職	⑧その他
数	2				3	8	3	2
2 今まで参加した防災塾の開催年度について								
	①今回が初めて	②昨年度	③2年以上前					
数	3	9	11					
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。								
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない			
数	3	9	3					
4 設問3の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
・時間が短くて議論の時間が少なかった、いろいろな方が参加してほしい								
・グループ内の方の防災意識が高くとっても参考になった								
・自分自身が行ってきた対策についても整理できた								
・席がグループに分かれていたため、意見交換がしやすかった								
5 自分の地区の「地区防災計画」をご存じでしたか。								
	①知っていた	②知らなかった （今回参加したことで知った）						
数	13	5						
6 「防災塾」に参加して、「地区防災計画」の内容を理解できましたか。								
	①参加前から理解していた	②参加したことで理解できた	③理解できなかった					
数	8	4	3					
7 設問6の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
・地区防災計画について触れる内容ではなかった								
・知ってはいるが、理解できているかは疑問								
・存在を知らなかった								
・少し知っていたが、マンションの防災についても理解することができた								
8 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと								
	数		数					
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	9	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	6					
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	2	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	7					
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	12	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	6					
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	8							
9 今後の希望する「防災塾」の進め方について								
	数		数					
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	6	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	2					
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	2	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	6					
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	0	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	2					
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	2	⑨その他（ ）						
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	7							

10 「地区防災計画」の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数			数	
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	4		④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	4	
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	2		⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	6	
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い	2		⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	2	
＜その他＞ 楽しめるようなイベントにしたら認知度も上がるのではないかな					
11 「防災塾」に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	6	6			
12 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
・火災についての対処法をもっと知りたい					
・成城大学の学生など若い人を巻き込みたい					
・ペットのいる家庭の防災講座が聞きたい					
・防災意識が高まるので、もっと多くの人に来てほしい					

(1) 実施日

令和6年9月8日(日曜日) 10時～12時15分

(2) 会場

船橋まちづくりセンター 活動フロアー1

(3) 講師

せたがや防災NPOアクション 宮崎 猛志 氏

(4) 参加人数 25名

内 訳：参加者13名、NPO2名(講師含む)、あんしんすこやかセンター職員1名、区職員9名

参加団体：管内町会・自治会(船橋会、船橋葭根会、フレール西経堂自治会)、日赤船橋分団、船橋地区民生委員・児童委員協議会、成城消防署千歳出張所、都立千歳丘高校、船橋小学校、船橋希望中学校PTA

(5) テーマ

「在宅避難、家庭防災、能登半島地震の現状」

(6) 実施内容

① 開会

砧総合支所地域振興課長 田村 朋章 あいさつ

② 講話

「在宅避難、家庭防災、能登半島地震の現状」

③ グループディスカッション／ワークショップ

「船橋地区の防災計画と在宅避難について」

ア) グループワーク実施に向けて、宮崎講師より事前説明

イ) 各参加者においてアイデア出し

ウ) 意見交換

エ) 各グループによる発表

オ) 宮崎講師による講評

④ 全体講評

船橋まちづくりセンター所長 長谷 進

⑤ その他(避難行動要支援者への支援について)

砧総合支所地域振興課より

⑥ 閉会

(7) 成果物

① 講話

能登半島地震の現状や、想定される首都直下地震について、資料に沿って講義。

<主な内容>

- ・（能登地震から6箇月経った後の、珠洲市の写真を示して）瓦礫などの状況は、半年前と殆ど何も変わっていない。「復興」ではなくまだ「復旧」の段階。報道等では徐々に取り上げられなくなっているが、これが現状。
- ・ 公費で解体などの話もあるが、3年ほどかかってしまうそう。
- ・ 例えば、公園の水道は使えるが、各家庭の水道は使えなかったり、地震から4～6箇月経つ現在でも、NPOなどが炊き出しを行っていたりする状況。こうした経験は（宮崎氏自身）今までなかったこと。
- ・ 1. 5次避難として、大型バスで金沢市へ移動した子たちは、医療職や社協、公務員などエッセンシャルワーカーが親の家庭が多かった。一方で、子と別れて暮らすことなどが困難となり、例えば珠洲市の社協職員のうち半数ほどが、止む無く退職してしまうということもあったようだ。
- ・ 被災地から遠く離れた皆さんの関心が薄れてしまうのが、実はもっとも恐ろしい。関心が薄れると、支援や物資が徐々に届かなくなってしまう。日々少しでもよいから、話題にし、関心を持ち続けてほしい。
- ・ 首都直下地震は、南関東のどこかで起きる、ということしか分かっていない。なので、考えられる具体的な場所（都心南部直下、立川市直下とか）によって、複数の想定がなされている状況。
- ・ 活断層は全国で2,000ぐらいある一方で、地震が起こってから、新たな活断層が判明するケースもあり、地震の予想は本当に難しい。



② グループディスカッション／ワークショップ

ア) グループワーク実施に向けて、宮崎講師より事前説明



イ) 各参加者においてアイデア出し

ウ) 意見交換



エ) 各グループによる発表

「A班」

- ・今回挙げた意見を参考に、現時点で自治会としてどこまで対応できるか、持ち帰って自治会内で考えていきたい。
- ・宮崎講師の話のとおり、「避難行動」と「避難生活」を区別して考えることが重要。
- ・一方で、そもそも、避難所等の名称（指定避難所、広域避難場所、一時集合所等）が細かく分かれていて、理解していない人が多いような気がする。

- ・民生委員としての話だが、フレールは22棟あり、避難行動要支援者への対応について、安否確認のほか、最低限必要な物品、チェックリストの準備など、自助の考えで進めることが大事だと考える。
- ・在宅避難と言われていても、実際多くの住民が避難所に行ってしまうのでは。こうした人たちへの、備蓄など在宅避難に関する自治会からの呼びかけは大事。
- ・震災時の、まちセンとの情報手段をどう確保するかも重要。避難所等の情報だけではなく、「ある道路が寸断された」といった情報確保のためにも。URとも防災に関する協定を結んではいるが。また、下水管やトイレが使えるかどうかの情報を知るためにも重要。

「B班」

- ・防災に関する知識や情報を得て意識を高め、それを発信していくこと、そこから行動に移すことが大事。
- ・防災カタログギフトについて、1人あたり3,000ポイントだが、3,000ポイントを超える部分については、自主的に準備していきたい。
- ・子どもを通じての普及啓発は重要。小学校の場合、子どもが防災に関して調べものをすると、親にも波及する。また、千歳丘高校では、一部生徒が防災士の資格を取得したという話を聞いた。こうしたことが大事では。
- ・防災ゲームなど、子ども向けで楽しめるものを活用すると、子どもを通じてより理解が広まるのではないか。
- ・在宅避難を考えるなら、多くの世帯が住む集合住宅の防災についてしっかり考える必要あり。
- ・避難行動要支援者への対応や、外国人向けの優しい日本語による発信など、(情報弱者向けの対応を)地域で考えていくべき。
- ・ご近所同士の連携を見据えた、日頃からの顔の見える関係づくりが重要。

「C班」

- ・皆さんからの意見を5つに分類。その中で、まずそもそも、在宅避難とは何を指すか分からない人もいるのでは、との意見が挙がった。
- ・避難所の防災倉庫に何がどれくらい備蓄されているか、分からない人が多い。スタンドパイプって何?という人も。
- ・色々な意見が挙がったが、5つに共通するのは「交通手段」がとても大きい要素だ、というもの。
- ・(電車だけではなく)環状7号線や環状8号線、国道246号線や甲州街道が通れなくなると、移動することさえ難しくなる。例えば地震が起きた際、(あんすこ職員として)そもそも職場や現場にすぐ向かえるのか、疑わしい。
- ・区職員で区内在住者が少ないという話も、グループワークの中で出ていたが、そうなると区職員も、震災時は指定場所に参集できないのでは。
- ・こうした状況を踏まえ、震災時の避難行動要支援者などの支援についても考えていく必要がある。例えば、介護サービス事業者、ケアマネ、保健師・看護師などの支援する側の職員が、こうした状況下で身動きが取れなくなって出勤や現場出勤できなくなった場合、誰が要支援者を支援するのか。こうしたことも見据え、区でしっかり対策を考えていく必要があるのでは。

「D班」

- ・震災が起きたら避難所へ向かう、という人は依然多いと思われる。他方、区では8月より、防災カタログギフトを各世帯に配付し、在宅避難を考えてもらうきっかけとなるよう進めているところ。
- ・こうしたことと併せ、近所付き合いなど、顔の見える関係づくりを進め、情報共有していくことが重要では。



オ) 宮崎講師による講評

- ・区では、指定避難所と予備避難所が設定されているが、収容人数には限界がある。例えば船橋小だけ見ても、2,000人も収容できないと試算されている。
- ・こうした状況や、地区防災計画更新を見据え、今回は在宅避難をテーマに皆さんに話し合っていた。各班の話聞いてみると、4班には共通点が多かった。そもそも在宅避難とは何か、住民の多くは避難所に向かってしまうのでは、など。
- ・そうした中、交通手段がとても大きい要素、という話は印象的だった。要支援者支援含め、出動できないかも、と考えることは重要だと感じた。
- ・集合住宅に関する意見も多く出ていたが、その中でもやはり、下水道（トイレ）の問題はしっかり考えておくべきところ。



③ 全体講評

船橋まちづくりセンター所長 長谷 進

- ・ 防災に関わるようになって１５年ほど経つが、今回防災塾に参加し、知識や意識をまた新たに得ることができた。
- ・ グループワークでは多様な意見が出揃い、船橋地区の皆さんの意識の高さを感じることができた。
- ・ 区として、これからも地区全体の防災レベルのアップに努めていくが、その中でも一般の方のレベルアップが重要。在宅避難を推進し、地区にお住まいの皆さんが運営する、避難所の負担軽減に少しでも繋がるよう、船橋地区の自助力を高めていきたい。

④ その他（避難行動要支援者への支援について）

砧総合支所地域振興課より、資料に沿って説明。

<主な内容>

- ・ 区では、要配慮者のうち、要介護度や障害など所定の要件に該当し、自ら避難することが困難で支援が必要とされている方を、避難行動要支援者と位置付けている。船橋地区の対象者は 350 名。
- ・ 協定締結いただいた町会には、本人から同意を得られた方のみの名簿を定期的に提供。日頃の見守りや災害時の安否確認用としている。
- ・ 昨年 10 月以降、(砧総合支所保健福祉課から) 該当の方に個別避難計画(様式)をお送りし、(同課主導で) 計画書の作成を進めてきた。
- ・ 避難行動要支援者の方々が一定数地区内にいらっしゃるのと、地区内の共助の取組みの中で、要支援者について、気にかけていただければありがたい。

⑤ アンケート集計

別紙のとおり

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）								
日付 令和6年9月8日 地区 船橋地区								
1-1) ご自身について（性別）								
	①男性	②女性	③未記入等					
数	6	6	1					
1-2) ご自身について（年齢）								
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数	0	0	0	3	2	4	3	1
1-3) ご自身について（職業）								
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他
数	1	4	1	1	1	2	3	0
2 今まで参加した防災塾の開催年度について								
	①今回が初めて	②昨年度	③2年以上前					
数	4	3	6					
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。								
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない			
数	5	7	1	0	0			
4 設問3の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
・時間が短く、課題を出したのみで終わってしまった。・もう少し時間が欲しい。・立場の違いにより、時間不足のため								
・もっと話せることはあると思うが、今のままで十分。								
・グループディスカッションで意見交換がよくできた。・活発な意見交換ができたため。								
・多様な立場から意見交換できた。課題について大切な点は交流できたが、それに対する手立てや対応策についてもさらに深められたらよかった。								
・4人グループのうち、3人は存じている方々でスムーズに話し合いを行うことができました。								
・地域共助の大切さを改めて知る事ができた。（知識を深めることが第1歩）								
・自分自身、勉強になることが多々あり、今後の対策に参考にしたいと思う。								
5 自分の地区の「地区防災計画」をご存じでしたか。								
	①知っていた	②知らなかった（今回参加したことで知った）						
数	8	5						
6 「防災塾」に参加して、「地区防災計画」の内容を理解できましたか。								
	①参加前から理解していた	②参加したことで理解できた	③理解できなかった					
数	1	11	1					
7 設問6の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
・具体的な説明をしてもらえた。・理解度が増した。・勉強になりました。								
・地区防災計画の内容ではなかった。								
・地区防災計画の全てを読み込んでいるわけではないので、申し訳ないです。								
・地区防災計画の存在は知っていたが、内容をよく読んでいなかったため。								
8 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと								
	数		数					
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	4	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	9					
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	5	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	5					
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	9	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	5					
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	11							

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日 付 令和6年9月8日

地 区	船橋地区
-----	------

9 今後の希望する「防災塾」の進め方について

	数		数
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	8	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	4
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	1	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	2
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	2	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	5
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	3		
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	5	⑨その他（ ）	0

10 「地区防災計画」の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと

	数		数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	6	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	4
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	4	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	4
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	5	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	3

＜その他＞・興味関心の薄い住民へ如何に発災前から後までの行動の取るべきルールなどを周知すべきか考え合いたい。

- ・要支援者への支援はとりわけ大切だと思っています。

11 「防災塾」に継続して参加したいと思いますか。

	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない	
数	7	4	2	0	0	

12 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。

・情報を得て意識向上を図ることができました。ワークショップも講演も大変有意義でした。

・今回、船橋小学校の校長先生を始め、学校の方がいらしてとても良かったと思いました。この地域は高校も防災に協力しているので、もっと学校関係（おやじの会、保護者含む）の方々にもたくさん参加して頂けると良いと感じています。欲を言えば、老人介護施設の方々に来て頂けるのも良いですね。福祉避難所のごことや老人の家族の配慮のヒントが頂けるかもしれないです。

・在宅避難できる体制の充実は必要と思いました。ワークショップ形式では色々な意見を考えたり、共有したりできて良かったです。

・参加数が少なく、もっと具体的な議論が必要だと感じた。参考になることは多々あった。各団体より最低1名以上は強制参加を願いたい。

・コアな方々からどのように広げ、定着させていってほしいのでしょうか。日々の繋がりという平たいところまで共有するには、どうしたらいいのでしょうか。学びを更新しつつ、まちの繋がりを改めて大切に育てていきたいと思っています。その間に加わればと思っています。長谷所長のまとめを心強く聞かします。まちづくりセンター、町会との大袈裟に一緒に、防災塾、地区防災計画の関心を持ち、見守っていきたく思います。

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
喜多見まちづくりセンター

(1) 実施日 令和6年7月29日(月曜日) 午前10時～11時30分

(2) 場所 喜多見東地区会館 第1・2会議室

(3) 参加人数 24名

一般	15名
東京都総務局総合防災部防災計画課	1名
株式会社 建設技術研究所	2名
株式会社 C T I リード	1名
砧総合支所地域振興・防災	1名
砧総合支所保健福祉課	1名
喜多見まちづくりセンター	3名

(4) テーマ

風水害への備え ～東京マイ・タイムラインをつくろう！～

(5) 実施内容

①開会挨拶(喜多見まちづくりセンター 所長 真中 高志)

②防災講話、マイ・タイムラインの作成

講師：株式会社 建設技術研究所 防災部 グループ長 森田 敏徳

- ・東京マイ・タイムラインとは？
- ・マイ・タイムライン作成に当たってのポイント
- ・マイ・タイムラインシートの作成(実演)

③世田谷区の避難所について(喜多見まちづくりセンター 柿本 勇成)

- ・水害時に開設する避難所について
- ・災害時の情報収集について

④避難行動要支援者への支援について

(砧総合支所 地域振興・防災 真木 雄太)

- ・避難行動要支援者とは
- ・区の実取り組み

⑤防災啓発物品、アルファ米の配布

(6) 成果物



(7) アンケート

今回の防災塾では実施せず、次回（令和6年9月24日）防災塾にて実施する

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
喜多見まちづくりセンター

(1) 実施日 令和6年9月24日(火曜日)午後2時～4時

(2) 場所 喜多見東地区会館 第1・2会議室

(3) 参加人数 38名

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・喜多見北部町会 2名 | ・喜多見西部町会 3名 |
| ・喜多見中部町会 1名 | ・喜多見東部町会 2名 |
| ・喜多見上部自治会 1名 | ・都営喜多見2丁目団地自治会 2名 |
| ・宇奈根町会 2名 | ・法人格鎌田南睦会 2名 |
| ・日赤奉仕団喜多見分団 1名 | ・民生委員・児童委員協議会 1名 |
| ・世田谷区立喜多見小学校 1名 | ・世田谷区立砧南小学校 1名 |
| ・世田谷区立喜多見中学校 1名 | ・優つくり小規模多機能介護喜多見 1名 |
| ・そんぽの家成城南 1名 | ・東京中央農業協同組合砧支店 1名 |
| ・成城警察署喜多見駐在所 1名 | ・成城警察署鎌田駐在所 1名 |
| ・成城消防署 1名 | ・成城消防団第5分団 1名 |
| ・成城消防団第6分団 1名 | ・喜多見あんしんすこやかセンター 1名 |
| ・社会福祉協議会喜多見地区事務局 1名 | ・せたがや防災NPOアクション 1名 |
| ・砧総合支所地域振興課 3名 | ・喜多見まちづくりセンター 4名 |

(4) テーマ

避難生活をどう送るか(家庭の備え、地域の備え、啓発PR方法)

(5) 実施内容

・開催日時 令和6年9月24日(火)午後2時～午後4時

・場所 喜多見東地区会館第1・2会議室

・参加人数 38人

・実施内容

① 開会挨拶・主旨説明(喜多見まちづくりセンター 所長 真中 高志)

② 講話(せたがや防災NPOアクション 宮崎 猛志)

・在宅避難について、能登の実情も踏まえて

③ グループワーク

テーマ: 避難生活をどう送るか

- ・家庭の備え
- ・地域の備え
- ・啓発PR方法

④発表・講評

1 班

【家庭の備え】

- ・ 備蓄をしているが収納場所に苦労している
- ・ 非常用トイレやバッテリーの準備をしている

【地域の備え】

- ・ 町会で助け合いのタオルを使う訓練をしている
- ・ 地域の高齢者施設との連携を進めたい
- ・ 防災訓練に人が来ないので工夫が必要

【啓発 PR 方法】

- ・ オンラインやメールの活用を進める
- ・ 地区防災計画をネット検索で知ったが、もっと周知すべき

2 班

【家庭の備え】

- ・ 防災食は高いので、日常的に使うものを多めに買ってローリングストックにするよう意識している
- ・ 自宅の家具転倒防止を行っている
- ・ 家の備蓄がなくなったら、車で東京から脱出する
- ・ ガソリンは半分無くなったら入れる

【地域の備え】

- ・ 町会自治会でも食料の備蓄をしているが、全会員分の備蓄はできない
- ・ 障害者や高齢者が多いが、民生委員が少なく対応が難しい
- ・ 家庭で用意できないリヤカーや消防ポンプの備蓄

【啓発 PR 方法】

- ・ SNS を活用して情報発信、SNS だけだと高齢者が困る
- ・ 回覧板をまわすよりも、掲示板での周知が効果的

3 班

【家庭の備え】

- ・ 水・食料の備蓄（水の持ち帰り用の容器等も用意する）
- ・ 定期的に備蓄したものを点検し、消費期限などを確認する

【地域の備え】

- ・ 各町会・自治会での防災訓練
- ・ 発災時に町会・自治会でできることをする（テント立てや湯沸かし）
- ・ 掲示板など町会・自治会内での連絡手段を考える

【啓発 PR 方法】

- ・ 町会・自治会に入会してもらうよう取り組み

- ・ 震災用・水害用避難所の違い等を周知する
- ・ 備蓄の呼びかけ

4 班

【家庭の備え】

- ・ 水の確保が重要。砵浄水場で給水が受けられることをもっと周知すべき。また、井戸水なども活用できると○
- ・ ローリングストック
- ・ 可能であればテント等キャンプ用品用意
- ・ 家族内で災害時の連絡方法について確認しておく

【地域の備え】

- ・ まずは在宅避難することの周知（避難所に行かないといけないと考えているひとが多い）
- ・ 地域団体（学校、スポーツチーム、企業、ボランティア）との連携

【啓発 PR 方法】

- ・ 防災チラシのポスティング
- ・ 日頃から友人へ情報提供する

⑤情報提供（成城消防署 地域防災担当係長 奥山 昭弘）

- ・ 防火防災診断について

⑥閉会挨拶（喜多見地区町会自治会連合会会長 石井 敏活）

(6) 当日の様子



(7) アンケート

別添アンケート集計表のとおり

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）					日 付 令和6年9月24日		地 区 喜多見	
1-1) ご自身について（性別）								
	①男性	②女性	③未記入等					
数	19	9						
1-2) ご自身について（年齢）								
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数				6	4	7	9	1
1-3) ご自身について（職業）								
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他
数	7	4	5	2		2	9	
2 今まで参加した防災塾の開催年度について								
	①今回が初めて	②昨年度	③2年以上前					
数	13	2	13					
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。								
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない			
数	7	20	1					
4 設問3の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
日頃考えているが、他町会、消防等の意見、情報は貴重/もう少し時間があれば/年2回の訓練を実施し、振り返りを行い、改善している/発言者が思った以上に多い/色々な意見が聞けた/地域防災の課題が明確になったので、対策を地域全体で考えていきたい/各地区同じような意見だったと思う/意見交換や議論はできたと思うが、十分かどうかはわからない/様々な立場の方からたくさん意見を聞くことができ、大変有益だった/地域の実情を把握することができた/自治会での取組み状況など初めて伺うことができた/高齢者施設として地域の防災にどのように貢献できるか初めて参加させてもらい、具体的に地域の要望を直接うかがえる貴重な機会だった/問題・課題をどう解決していくのかという最善策がでたが、まだまだ話し合わなければならないことだと感じた/近隣の地域での細かい話し合いはここに必要だと思うが、他の方々の取り組みや考えを伺う機会をいただき、よかったと思う/顔の見える繋がりにより、対応を考えていけると思う。今後も参加して考えていきたい								
5 自分の地区の「地区防災計画」をご存じでしたか。								
	①知っていた	②知らなかった（今回参加したことで知った）						
数	18	10						
6 「防災塾」に参加して、「地区防災計画」の内容を理解できましたか。								
	①参加前から理解していた	②参加したことで理解できた	③理解できなかった					
数	11	14	3					
7 設問6の選択肢を選んだ理由をご記入ください。								
興味があるから/SNSやTVの報道でしか見たことがなかったが、実際話を聞いて違うことなど知ることができて大変勉強になった/改めて地区防災計画を知ることになった/区役所職員は区外に住んでいる人が多いので、災害発災時には人はほとんどいない⇒自助が必要だとよくわかった/防災について、より具体的に分かった/地区防災計画をおおまかに理解できた/地区防災計画があることは知っていたが、詳しい内容については、よくわかっていなかった/地区がどの大きさなのか。喜多見地区特有の防災計画があるのかよくわからなかった/地区防災計画についての話題が少なかった								
8 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと								
	数		数					
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	7	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	10					
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	5	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	16					
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	19	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	15					
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	15							
9 今後の希望する「防災塾」の進め方について								
	数		数					
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	12	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	10					
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	6	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	12					
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	3	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	6					
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	7	⑨その他（						
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	7	）						

10 「地区防災計画」の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数			数	
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	13		④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	10	
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	7		⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	6	
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い	7		⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	10	
<その他>					
11 「防災塾」に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	10	15			
12 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
- 初めて参加させていただいたが、講師の話で色々なことを学ぶことができ勉強になった。また、グループワークでは地域の実情を知ることができ、もっと学びたい、考えていきたいと思った。 - 毎年毎年開催していただきたい - 自分の職場でも講演していただきたいと思った - 地区個々の課題がわかり、参考になった					

防災塾（第1回） 実施報告書

砧総合支所地域振興課
砧まちづくりセンター

（1）実施日 令和6年9月15日（日曜日）午前10時～午後1時

（2）場所 都立砧公園ねむの木広場

（3）参加人数

一般 約2,000名（砧公園への来場者）

区職員、日赤奉仕団砧分団、成城消防団第五分団 25名

（4）テーマ

防災フェスタ in 砧公園

防災知識の裾野を広げるべく防災訓練への参加を意図していない幅広い世代への防災知識と地区防災計画等の普及啓発を目的とし、砧公園の来園者に広く防災の普及啓発を行う。

（5）実施内容

コーナー名	実施団体
子ども向け防災屋台「きみのはじめてやってみよう！」	砧まちづくりセンター
防災体験による防災知識の普及啓発	地域振興課地域振興・防災
「ペットの防災」普及啓発	砧まちづくりセンター
「防災カレー」炊き出し体験	日赤奉仕団砧分団

※本事業は毎年砧まちづくりセンターと東京都公園協会砧公園サービスセンターで実施している「防災フェスタ in 砧公園」の一環として実施する。

〈各コーナーでの実施内容と結果〉

●子ども向け防災屋台「きみのはじめてやってみよう！」

・災害時に必要なことに関わらず、時代の変化により子どもが経験したことのない以下の内容を体験してもらう。主に3つの体験をもらった。

① マッチでろうソクに火をつける

マッチを使ったことがないという子どもが多く、炎が怖くて断念する子や、臆せずに火を着ける子等、様々な反応が見られた。

② 灯油ポンプで水を移し替える

灯油ストーブに馴染みがない子どもが多く、灯油とは何に使用するものなのかを保護者と話しながら体験している様子が伺えた。また、理科の実験のような体験ができて楽しかったという声もあった。

③ 成城消防団第五分団による応急救護、AED講習

訓練人形を使用して子ども向けに特化した応急救護やAEDの使い方を学び、実際に心臓マッサージ等の体験を行った。

●防災体験による防災知識の普及啓発

- ・地震体験車や消火器操作体験、煙中避難訓練等の防災体験ができるブースを用意し、実際に体験してもらいながら防災知識や防災意識の向上を図った。
- ・法人格砧町自治会にもご参加いただき、災害時に使用できる携帯トイレの普及啓発を行った。吸収剤に色がつくよう工夫が施され、子ども達は楽しみながら災害時の対応について学んでいた。

●「ペットの防災」普及啓発

- ・近年水災等が多く発生していることから区民が避難所を利用する可能性が増えることが予想されている。世田谷保健所からパネル等の教材を借用・展示し、災害時のペットの取り扱いや日頃からのしつけの大切さについて説明を行うとともに、問い合わせへの対応を行った。砧公園内ということもあり、ペットの散歩をしていた多くの方に興味をお持ちいただき盛況であった。

●「防災カレー」炊き出し体験

- ・アルファ化米と温めなくても食べられる防災カレーを使用し炊き出しを行った。お湯を沸かす際に砧公園に備え付けのかまどベンチを利用し、災害時を想定した手順で調理を行うことで、災害時の行動へのイメージと意識をより高めることができた。調理したカレーを来場者に配布することで防災意識の啓発と備蓄の必要性を伝えることができた。

(6) まとめ

防災フェスタの一環として防災塾を設け、様々な体験をしてもらうとともに来場者に地区防災計画書や備蓄物品を配布することで防災意識の啓発を行った。防災塾をきっかけに砧地区の多くの方に地区防災計画について知ってもらうことができた。

また、日頃から防災意識を持つことの重要性や、今後災害が起こった際により快適な避難生活を送るための手段や在宅避難の備え等について幅広い世代の区民に伝えることができた。これにより、参加した区民が地域に住む他の人にも防災塾の内容を伝えることや、防災に対する新たなアイデア等が寄せられることが期待され、防災塾の目的である「地区防災計画のブラッシュアップ」も達成できたと考える。



防災塾（第2回） 実施報告書

砧総合支所地域振興課

砧まちづくりセンター

（1）実施日 令和6年10月31日（木曜日）午後3時～5時

（2）場所 砧まちづくりセンター 活動フロア

（3）参加人数 18人

（4）テーマ

i 在宅避難について

ii 地区防災計画における各地区の課題について

（5）実施内容

①開会挨拶

砧まちづくりセンター所長 石綿 真人

②日頃からの防災活動の紹介

各町会・自治会から

③避難行動要支援者の支援について

砧総合支所地域振興課から

④【講話】在宅避難について

講師：せたがや防災NPOアクション 宮崎 猛志 氏

⑤グループワーク

参加者をA・B2つのグループに分けて以下のテーマについて話し合った。

テーマ：①在宅避難

②地区防災計画における各地区の課題や修正点

<グループワークで出た意見>

■Aグループ

①在宅避難

- ・在宅避難の必要性をどのように地区住民へ伝えるか、どうすれば伝えるのかを考えていくべき。
- ・自宅に安全室のような部屋があるとよい。
- ・ガラスの飛散防止対策は、防犯にも役に立つ。
- ・何の備蓄（備え）が必要かを考えるきっかけづくりが必要。
- ・備える物として、自身にとって必要となる物（常備薬、眼鏡、足に合う靴など）を把握しておくことが大事。
- ・集合住宅、マンション内での在宅避難の際、どのように助け合いをするのかルール等を作っておくとよい。

- ・生活用水の大切さを見直すことが大事。
- ・在宅避難が当たり前になった時に、不要になるもの・必要になるものを考えていくことも必要。
- ・震源地から 30 km 離れれば普通の生活ができるという選択肢もある。
- ・マンション（オーナーマンション）全体に対し、町会として飲食等の配布を考えるべきか、各世帯主に任せるべきか分からない。
- ・在宅避難の際は、町会として何をすべきかを検討しておくといよい。

②各地区の課題

- ・住民の防災意識を高めるためにはどうすればよいのか。防災訓練にいかに参加してもらうかが重要。
- ・スマホが繋がらない状況の中、どうやって家族の安否を確認するのが不安に思う。

■Bグループ

①在宅避難

- ・在宅避難と言われても、家にいられるかどうかの判断が難しい。どこからどこまでが家にいてよくて、どこからが逃げるべきなのかわからない。自宅が耐えられるかどうかを知ることから始めないといけない。
- ・備蓄しているものを普段使いすることも重要。講師より避難行動と避難生活を分けて考えるというお話をいただいたが、両者の違いをきちんと把握しておくことも重要となる。
- ・感震ブレーカーを全戸に配れないか。また、生活用水を保管しておくべき分量と、給水所までの距離を知っておくべき。避難所への届け出も必要だ考える。
- ・支援物資を受け取れるように、自宅と避難所の連絡方法があるとよい。
- ・考えは色々あると思うが、まずはトイレが1番、燃料が2番、生活用水が3番、食料が4番だと思う。生活に一番必要なのはトイレ。燃料はコンロのガスとか、いざとなったときに火が使えないと始まらない。火が起きないとお米も炊けない。

②各地区の課題

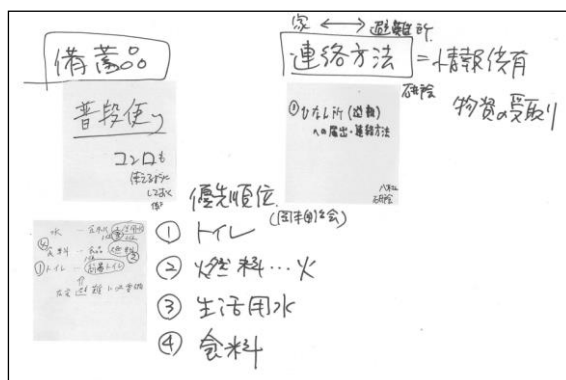
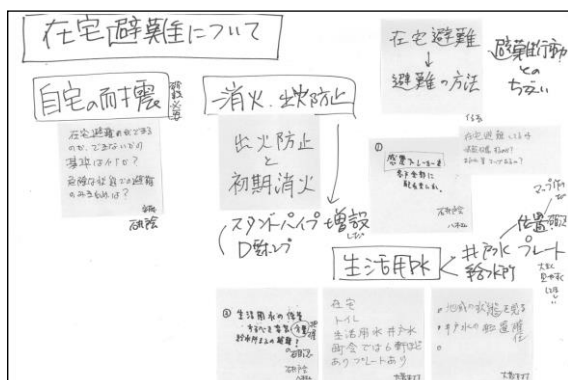
- ・多くの町会・自治会で初期消火について積極的に取り組まれていることが印象的だった。初期消火・出火防止は重要だと思う。
- ・一部の町会にはD型ポンプもスタンドパイプもない。どちらか1つは設置したいと考えている。
→区で街路消火器を設置することも可能であるため相談を。
- ・震災用の井戸にプレートがあるが、表示が小さいのでもっと大きくして周知を行った方がよい。

- ・災害時に使うことができる井戸の配置を確認する必要がある。地図などを作成できるとよい。

⑥講評

- ・町会・自治会が日頃から取り組まれている活動自体は大変素晴らしいが、一方で負担感がある様にも感じた。
- ・災害が発生した時、町会・自治会の皆さんはマネージャーであり、プレーヤーは避難してきた人になる。これまでたくさんの被災地を見てきており、手伝うという方は大勢いたが、どうすればいいのかわからないといった人が多かった。そのような時に町会・自治会の皆さんがマネージャーとして避難所運営のやり方や地域の守り方などを指導していただきたい。

(6) 成果物



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）									
日付 令和6年10月31日 地区 砧									
1-1) ご自身について（性別）									
	①男性	②女性	③未記入等						
数	10	0	0						
1-2) ご自身について（年齢）									
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
数	0	0	0	0	1	2	7	0	
1-3) ご自身について（職業）									
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他	
数	1	0	0	3	0	0	3	1	
2 今まで参加した防災塾の開催年度について									
	①今回が初めて	②昨年度	③2年以上前						
数	3	4	5						
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。									
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない				
数	3	3	1	1	0				
4 設問3の選択肢を選んだ理由をご記入ください。									
・①⇒災害についての重要性が確認できた									
・①⇒グループワークを行ったことで意見交換や議論ができたと思う									
・②⇒貴重な情報を多くいただいたが、討論の中で十分に話し合いの時間が取れなかったため、消化不良な気がした									
・②⇒普段できないことができた									
・③⇒各町会・自治会で対策にバラつきがあり、かみ合わない									
5 自分の地区の「地区防災計画」をご存じでしたか。									
	①知っていた	②知らなかった（今回参加したことで知った）							
数	10	0							
6 「防災塾」に参加して、「地区防災計画」の内容を理解できましたか。									
	①参加前から理解していた	②参加したことで理解できた	③理解できなかった						
数	5	5	0						
7 設問6の選択肢を選んだ理由をご記入ください。									
・①⇒区の各種会議に参加して、地区防災計画について知識を得ていた									
・①⇒以前の防災塾に参加していたから									
・②⇒各町会の取組みやブレーストームングができたため									
8 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと									
	数		数						
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	7	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	4						
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	4	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	4						
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	7	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	2						
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	8								

9 今後の希望する「防災塾」の進め方について					
	数		数		
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	6	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	3		
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	1	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	6		
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	1	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	1		
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	1	⑨その他（	0		
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	2	）			
10 「地区防災計画」の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数		数		
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	4	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	3		
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	4	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	3		
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	4	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	2		
＜その他＞					
11 「防災塾」に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	4	2	0	0	0
12 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
・①⇒在宅避難について宮崎氏の講話はとても役に立ちました					
・①⇒大変有意義な「防災塾」でした					